



## 家族を支える大黒柱

日本の民家には昔から大黒柱といふ存在がある。

大黒柱とは建物を支え、家族を支える大事な役目を担っている重要な柱である。

家族間でのコミュニケーションが豊富な現在、程よい距離を保ちながら、家族関係を支える空間が必要であると感じた。

そこで、家族の中心である大黒柱に空間を持たせ、新たに家族の関係・距離を支える「大黒柱空間」を提案する。

建物の中心に位置する大黒柱空間はすべての部屋に接続している。

部屋の中から感じるのは開口部を介して、声や臭いなどの気配であろう家族としての健全な距離を保つ。

開口部から自ら覗き込まることで視線が大黒柱内に集まり中心性ができる。家族での特別な空間となっていく。

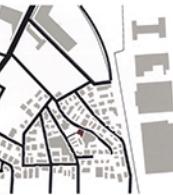
使い方は住む家族によって変化する。また同じ家族でも日や時間によって変化するだろう。

普段はリビングのように利用し、家族で揃って夕食、夕食後の小さな演奏会、子供の芸術会の練習、趣味のダンス、週末は友人を招いてパーティー。

空間内の壁には、家族の写真や絵、それぞれの趣味や小物など思い出などが飾られている。

空間だけではなく思い出・記憶・時間を共有することで家族としてのコミュニケーションが増えるきっかけとなり、現在だけでなく未来へと繋げていく家族のための空間となる。

## 01\_Site



所在地: 京都府伏見区北沢1-12-6

想定する家族構成: 夫婦+子供(小学生)2人

敷地周辺の特徴: 都心部であるながら閑静な住宅地である。所々に緑が散在する。

敷地から空気がよく見える気持ちの良い敷地である。

植栽があるため斜面を生かした住宅形態であろう。家族の為の空間を考える。

光が落ちる時・光が落ちない時・光が落ちる角度によって住宅全体・季節や時間などを感じられる。



## 02\_Design concept



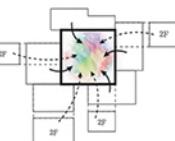
大黒柱に空間をつくる。

その空間で家族の関係・距離をつくす。家族全員で空間を作り出していく。

食べたり、話したり、踊ったり、演奏したり。学校で作った絵やアートや書字を壁に飾り思い出として共有したり。

開口を開けることで音や香りなど家庭を繋げる。家族が中心に集まりたくなる共有空間になる。

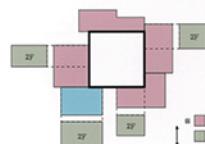
## 03\_Diagram - composition-



向うの部屋との関係。

1F, 2Fから複数が繋まる。

家族が集まることのできる利用がなされる。



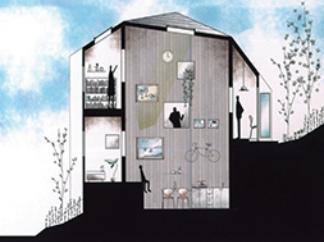
室内によるプライバシーの関係。

大黒柱を中心各部屋ではプライバシーの強さが異なる部屋をつくっている。



敷地の特徴として空がひらくて開放感のある印象を持った。

各室にトップライトを設け、空とそこから溢れ落ちる光を感じられる。



A-A'断面図 S=1:100